

(独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター主催 (2012.10.23 開催)  
平成 24 年度 科学技術シンポジウム  
「 科学技術イノベーション推進に向けた知識の結集  
— シンクタンク機能のネットワーク形成に向けて — 」  
パネルディスカッション まとめ

パネルディスカッション「科学技術イノベーション政策推進のためのシンクタンクの役割と連携」では、次のような点が議論された。CRDS では、こうした議論を今後の活動に反映していきたい。

## I. 議論の要旨

### 1. シンクタンク機能を有する組織の充実、場の形成

- ・ 科学技術イノベーション政策におけるシンクタンク機能の充実の必要性。
- ・ 従来のシンクタンク機能を活用し、産学官が集う「場」を形成。目的の共有、知識の交換、共通コミュニケーションツールの構築。
- ・ 日本学術会議やイノベーション戦略協議会を支える機能の充実。
- ・ 政策立案者が個人としてネットワークや学会等へ参加できる仕組みづくり。
- ・ 政策決定者との間の行動規範の構築。
- ・ ネットワークの中核となる事務局部門の充実。

### 2. 期待されるシンクタンク機能の拡充

- ・ 社会的期待の発見と研究開発課題の設定。課題設定、政策選択肢評価の段階でのアセスメント。課題設定の自律性。課題設定への人文・社会科学者の参加。
- ・ 客観的な根拠に基づく政策オプションの形成。
- ・ 新しい価値観に基づく科学技術イノベーション指標の開発。
- ・ 政策分析(ポリシーアナリシス)と政策オプション作成(ポリシーデザイン)とのバランス。
- ・ 客観的根拠を収集し、考察する専門家集団の組織化。
- ・ 社会と科学の橋渡し、それによる科学への信頼獲得。
- ・ 基礎研究・技術開発・イノベーションに連続性をもたせ、社会につなぐ。

### 3. 人材育成とキャリアパス

- ・ シンクタンク構成員に求められる資質・能力の明確化。
- ・ 総合化、俯瞰ができる人材の発掘・トレーニング。
- ・ ピアレビューに基づく論文中心の研究開発とは異なる評価システムの開発。
- ・ シンクタンク機能を担う人材育成を充実させることが、結果的に科学の強化につながるとの認識の共有。

- ・ 言語の異なる関係者間を媒介できる人材の育成。人文・社会科学分野の人材の参加の促進。

#### 4. シンクタンク機能に対する評価

- ・ 研究・政策における PDCA サイクルの実践。継続的な評価の実施。
- ・ 提言作成のプロセスの透明性確保や品質管理の仕組みづくり。

## II. 今後のアクションに向けて

1. 科学技術のグローバルで急速な拡大の下で、政策課題の設定・立案・決定・実施・評価を、根拠に基づいて専門的・持続的に行うとともに、その質・効果を向上するため、シンクタンク機能を拡充する。
2. 役割の異なるシンクタンク機能(根拠の蓄積、現場情報の収集、調査分析、政策オプションの作成等)を持つ機関が、俯瞰的にそれぞれの役割・機能を認識、共有する。独立・不偏・俯瞰・具体・透明性を確保する。
3. シンクタンク機能を持つ組織(産学官等)が、連携し協働するプラットフォームを速やかに形成する。
4. シンクタンク活動に基づき政策決定・実施者が、的確に行動するため、相互に役割と責任を自覚し信頼関係を醸成し、行動規範を確立する。
5. 科学と政策、科学と社会を繋ぎマネジメントのできる人材の育成と活躍する場を拡大する。

以上